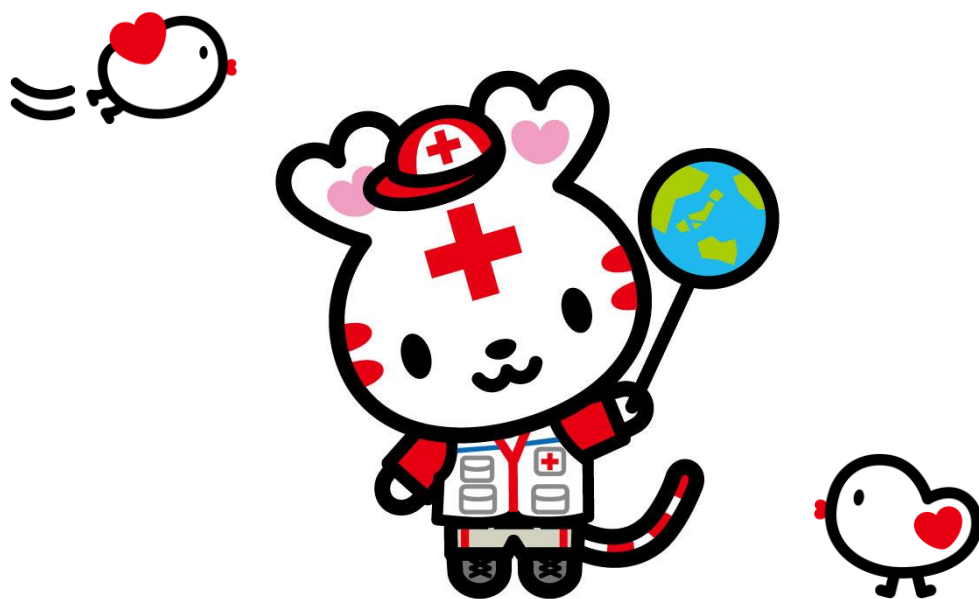


# 日本赤十字社

## 国際救援・開発協力要員になるための 研修の手引き



令和2年2月12日付国企第36号  
「日本赤十字社の国際活動に係る令和2年度の研修開催予定について」

別添4

平成31年2月25日初版  
令和2年2月12日第3版

## 目次

|    |                          |         |
|----|--------------------------|---------|
| 1) | 派遣への道                    | ..... 3 |
| 2) | 研修を受けてみる。はじめの一步          |         |
|    | -WORC、Stay Safe を受講しよう   | ..... 4 |
| 3) | 要員として登録されるためには           |         |
|    | - IMPACT 研修と、保健医療 ERU 研修 | ..... 5 |
| 4) | 派遣前にならず受講しましょう。-安全管理研修   | ..... 6 |
| 5) | 派遣に向けて                   | ..... 7 |
| 6) | その他の研修                   | ..... 7 |
| 7) | 役に立つ情報一覧                 | ..... 8 |

## ガイドラインの目的：

要員を目指す職員にとっても、要員を育成したい支部・施設にとっても、「要員になるためには何をすべきか?」、「どのようなプロセスで、いつ派遣されるのか?」様々な疑問があると思います。その答えとして、このガイドラインがお役に立てば幸いです。

### 1) 派遣への道

まず、派遣には4つの種類があります。下記に派遣種類と内容、派遣先の例をまとめています。

|   | 派遣種類   | 内容   | 派遣先例   |
|---|--|--|--|
| 1 | 保健医療緊急対応ユニット (Emergency Response Unit: 以下 ERU) | 発災後、国際赤十字・赤新月社連盟からの要請を受けて実施される医療支援チーム (ERU チーム) の要員として働きます。      | バングラデシュ南部避難民救援事業<br>ハイチ大地震災害救援事業<br>スマトラ島沖地震救援 |
| 2 | 日本赤十字社復興支援事業、開発事業など                            | 災害後の復興支援や、復興支援後の開発支援事業のために働きます。一から複数名で派遣され、主に相手国姉妹社のメンバーと共に働きます。 | バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業<br>パレスチナ赤新月社医療支援事業        |
| 3 | 国際赤十字・赤新月社連盟 (連盟) の事業                          | 事業内容は多岐にわたりますが、連盟へ出向する形で多国籍連盟メンバーと共に働きます。                        | 中東地域紛争犠牲者支援事業 (ヨルダン)<br>ハイチコレラ衛生促進事業           |
| 4 | 赤十字国際委員会 (ICRC) の事業                            | 主に紛争地での医療支援事業が多いですが、3と同じく ICRC に出向する形で、多国籍の ICRC メンバーと共に働きます。    | ICRC 南スーダン紛争犠牲者救援事業<br>ICRC パキスタン紛争犠牲者救援事業     |

また、これら事業のために日本赤十字社から派遣される登録要員の数は、例えば2018年は5.6人/月平均、2019年は16.2人/月平均、でした。この数字が少ないと思われるかもしれませんが、しかし、実際日本赤十字社で海外派遣要員として登録をしている621人(2020年2月現在)のうち、すぐに派遣要請に応えられる人材は200人にも満たない現状を考えると「自分にもチャンスがある」とご理解いただけたと思います。

一方で、海外派遣要員が所属する組織(支部・施設)の視点で考えることも大切です。例えば、病院は通常業務に従事する大事な職員を急遽海外へ派遣することになる場合、その職員が不在の間、他の職員や、患者さんへの負担も考慮する必要があります。要員個人が派遣を希望しても、容易に送り出せない現状もあります。

-----

このような中で、海外派遣要員になるために準備することはたくさんあります。例

えば、医療従事者としてスキルを磨く。どのチームでも働けるようにコミュニケーション能力を高める。言葉に困らないように英語力を高める。こうしたことで、ご自身の要員としての価値を高めることに加え、組織内の理解を得るために、上司や同僚との関係を日頃から良好に保つことも大切です。自分で派遣の下地を作り出す、こうした努力は一見国際救援と関係ないように見えますが、深く関係しています。

## 2) 研修を受けてみる。はじめの一步 - WORC、Stay Safe を受講しよう -

派遣されるためには、まず登録要員になる必要があります。登録要員とは、日本赤十字社本社によって、正式に要員として認定された職員のことです。また、登録要員になるために定められた研修を受ける必要があります。

登録要員となる初めの一步として、国際赤十字・赤新月社連盟の e ラーニングプラットフォームから、WORC (World of Red Cross and Red Crescent) と Stay Safe を受講・修了しましょう。これらは英語でのオンライントレーニングで、受講にはパソコンとインターネット回線が必要ですが、受講料は無料です。(概要は表 1 を参照)

それぞれ何度でも聞き直しが可能で、セッション途中で退席しても、途中退席した個所から開始できますので、ご自身のペースで進められ、また何度でも繰り返し勉強できます。モジュールごとにテストがあり、最後はファイナルテストがあります。そのテストを終えると、修了証が発行されます。

この二つのトレーニングの修了は、要員登録に不可欠な研修である、保健医療 ERU 研修や IMPACT 研修 (下記「3) 要員として登録されるためには」参照) の参加要件になっています。、要員登録を希望する方には必須のトレーニングです。

表 1 : 【必須 e-ラーニング概要】

|         | WORC  | Stay Safe                                       |
|---------|---|---|
| 目的      | 赤十字の全体像を学ぶ  | 派遣中の安全管理を学ぶ                                     |
| 形式      | オンライン   | オンライン   |
| 概要      | 赤十字の歴史や活動、赤十字標章、7 原則、連盟と ICRC、各国赤十字社の役割分担他など、ムーブメント内の調整について包括的に学ぶ   | より安全に国際救援で活動するために、派遣時に注意すべきこと、命を守るためにすべきことなどを学ぶ |
| 対象      | 全ての方  | 全ての方  |
| 受講目安時間  | 16-20 時間程度  | 4 時間程度  |
|         | ※受講時間は個人により差があります。連盟による公式目安は上記時間です。   |   |
| 言語      | 英語  | 英語  |
| 受講先 URL | <a href="https://ifrc.csod.com/client/ifrc/default.aspx">https://ifrc.csod.com/client/ifrc/default.aspx</a> |   |

|  |   |
|--|---|
|  | ※連盟の e-learning プラットフォームを利用するためには、アカウント登録が必要です。必要事項を記入してから始めましょう。 |
|--|---|

### 英語が苦手な方へ：

「英語の勉強に苦勞している」という声があちこちから聞こえてきます。しかし、今でこそ英語を使って仕事をするベテランの要員さんも、多くの場合、たくさん勉強して英語を使えるようになりました。

勉強方法としてお勧めなのは、テスト対策だけでなく、できるだけ英語を使う状況に身を置くということも挙げられます。周りに英語話者がいなくても、とにかく英語で思考して、英語で表現してみる。もちろん、可能であれば英語話者の中にしばらく身を置いて、英語しか通じない時間を定期的に持つことも大切です。そうすることで、英語に対する恐怖心が消え、英語が日常の一部となります。

英語力が不十分なので研修内容がわからないのでは、せっかくの研修もあまり意味がありません。また、派遣先で命にかかわるような決断をしなければいけない時、または日々のコミュニケーションをとるためにも、英語は最低限身に付けておくべき必須項目といえます。苦手な意識を持たず、楽しく勉強を続けましょう。続けていれば、いつか必ず使えるようになります。

参考：日本赤十字社本社が導入している e ラーニングライブラリ (<https://jmam.generalist.jp/>) で TOEIC 対策のオンライン研修が受けられます。詳しくは所属施設の研修や人材育成担当者にお問合せください。

### 3) 要員として登録されるためには

#### -IMPACT 研修と、保健医療 ERU 研修-

WORC と Stay Safe を受けた後は、日本赤十字社によって年に一度ずつ開催される国際救援・開発協力要員研修（International Mobilization and Preparation for Action、以下 IMPACT 研修）又は、保健医療 ERU（ERU：Emergency Response Unit）研修（概要は表 2 参照）に参加しましょう。IMPACT 研修は ERU 事業以外に派遣されるために必要な研修で、ERU 研修は地震など大規模災害時の、緊急救援に派遣される要員になるための研修です。

どちらかの研修に参加し、研修を通じて要員としての要件を満たしていると認められた職員は、正式に要員として登録されます。登録は研修を主管する本社国際部企画課が行います。要員として登録されると、派遣に応募することができます。

表 2 【登録のために必要な研修の概要】

| 研修名 | IMPACT 研修   | 保健医療 ERU 研修  |
|-----|---|--|
| 目的  | 海外の人道支援ミッションに従事する要員に必要なことを学ぶ                      | ERU ミッションに必要なことを学ぶ   |
| 形式  | グループワーク、座学など                                      | グループワーク、座学など   |
| 概要  | 赤十字の 7 原則、問題分析能力、日赤職員としての国際支援現地での役割、事業の組み立て方などを学ぶ | ERU 設置から終了までの一連の流れを学ぶ (ERU サイトセレクション、資機材搬入方法、資機材管理倉庫運営、ハンド |

|      |  |                        |
|------|--|------------------------|
|      |  | オーバーなど)                |
| 対象   | 社会人経験 3 年以上の日本赤十字社の職員、または外部からの参加者、連盟や海外赤十字社の職員 | 日本赤十字社の職員、連盟や海外赤十字社の職員 |
| 受講期間 | 6 日間   |                        |
| 費用   | 国際医療救援事業交付金対象                                  |                        |
| 言語   | 英語   |                        |
| 開催地  | 神奈川県   | 熊本県                    |
| 開催時期 | 毎年 5-6 月ごろ                                     | 毎年 10-11 月ごろ           |
| 募集人数 | 24 人程度   | 24 人程度                 |

これら研修には、所属上長からの許可を得てから、要項に沿った参加申し込みを行います。どの時期に開催されるのかは毎年少しずつ異なりますので、本社からの通知を注意して見てみましょう。通知は開催の 2～3 か月前に全施設に送られます。その後窓口となっているそれぞれの施設の各総務部（課）に送られ、本社は同時期に要員ウェブサイトの「要員へのお知らせ」にも掲載します。要員ウェブサイトは、登録要員にならなくても見ることができます。（「8）役に立つ情報一覧」を参照）

#### 4）派遣前に必ず受けましょう-安全管理研修

安全管理研修（概要は表 3 参照）は、派遣先での要員の身の安全の向上と管理を目的とした派遣前に必須の研修で、e-ラーニングで学んだ Stay Safe の内容をより深く、具体的にした 3 日間の研修です。これも所属上長に相談の上、応募しましょう。研修開催の通知については、全施設あて、2～3 か月前に送られます。

表 3 【安全管理研修概要】

|      |  |
|------|--|
| 研修名  | 安全管理研修   |
| 目的   | 要員の安全管理をはかるため  |
| 形式   | グループワーク、座学   |
| 概要   | 国際人道支援を取り巻く安全の状況、安全管理の 7 つの柱、要員個人の安全、重大事案のリスク軽減と対処など |
| 対象   | 保健医療 ERU タイプ 1 研修や IMPACT 研修を受講した方または受講を予定している方など    |
| 受講期間 | 3 日間   |
| 費用   | 国際医療救援事業交付金対象  |
| 言語   | 日本語（動画資料など一部英語）                                      |
| 開催地  | 東京都 日本赤十字社本社他  |

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 開催時期 | 毎年 2 月、7 月ごろ。年に 2 回実施 |
| 募集人数 | 25 人～30 人程度           |

## 5) 派遣前に必ず受けましょう-必須 e-ラーニング

※安全管理研修のほかに、連盟の E-ラーニングプラットフォームにて、以下のモジュールを受けていただく必要があります。時間のある時に受講しておきましょう。

- Code of Conduct (30 分)
- Principles and Rules for Red Cross and Red Crescent Humanitarian Assistance (60 分)
- 101 Corruption prevention (2 時間半)
- Child Protection for IFRC (30 分)
- Introduction to Protection from Sexual Exploitation and Abuse (PSEA) " (30 分)
- How can we keep our information safe? (cyber security training) (45 分)

## 6) 派遣に向けて

研修が終わると、いよいよ登録要員となります。登録要員は、要員ウェブサイトアカウントを持つことができ（アカウントは本社から配布されます）、派遣をいつでも受けられる状態になります。派遣の機会は、常に要員ウェブサイトにアップデートされているので、こまめに情報をチェックし、希望する派遣先がある場合は所属上長などに相談の上、本社国際部企画課の派遣担当者に連絡をとりましょう。連絡先は、その都度募集要項に記載されています。

但し、要員になるために必要なことをすべて終えても、所属先施設や家庭の都合で長い間派遣されない要員もいます。状況は異なりますが、派遣についての悩みがあるときは、身近に派遣経験者がいる場合はその方に相談してみましょう。

また、そうした経験者が周りにいない場合は、要員ウェブサイトの「要員へのお知らせ」から経験者の話を聞ける機会を探してみましょう。特に国際医療救援拠点病院と呼ばれる以下 5 つの病院（日本赤十字社医療センター、名古屋第二赤十字病院、大阪赤十字病院、日本赤十字社和歌山医療センター、熊本赤十字病院）では、将来派遣を目指す職員を対象に、オープン研修会や勉強会を実施しています。また加えて、本社の国際部企画課・研修係（TEL：03-3437-7090）へご相談いただくことも可能です。

## 7) その他の研修

一回目の派遣が終わってから、二回目・三回目の派遣を目指す方にはその他の研修を通じてご自身の能力を高める機会があります。日本赤十字社では、上述の拠点病院と協力して、様々な専門分野研修を行っています。例えば、日本赤十字社医療センターでは、プロジェクトの計画、立案、モニタリング、評価を学ぶ Project Cycle Management (PCM)研修。名古屋第二赤十字病院では、特殊な外傷を癒すための方法を学ぶ、災害

外傷研修（以前の戦傷・災害外傷研修）。日本赤十字社和歌山医療センターでは、マラリアやコレラなど熱帯地域での感染症について学ぶ、熱帯医学研修。大阪赤十字病院では、事業の管理力を磨くための ERU 管理・技術要員研修。熊本赤十字病院では、資機材技術者のスキルを磨くための、ERU 技術要員研修などを実施しています。こうした研修へ参加することによって、自分の専門分野を磨き、次の派遣に備え、仲間と最新情報をアップデートできます。ご自身の専門に磨きをかけることで、能力も上がり、その分野に特化した派遣の任務も徐々に任されるようになり、連盟や ICRC からの任務にも応えられるようになります。

また、国外での研修には、連盟や ICRC が主催する研修もあり、そうした場所に参加するところになると、現地で共に働いた他国の赤十字・赤新月社の職員や、ICRC/連盟の職員と、より詳しく包括的な内容の研修を受けられるとともに、次の派遣に向けてより具体的なネットワークの構築の機会も持つことができます。

## 8) 役に立つ情報一覧

➤ 日本赤十字社要員ウェブ（海外派遣要員専用サイト） <http://ilovejrc.com/>

ログイン ID : jrcs

ログインパスワード : redcross

※要員未登録の方でも、研修の情報、事業の情報などをご覧いただけます。

※パスワードは変更しないでください！！！！

➤ 国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）ウェブサイト

IFRC.ORG <https://media.ifrc.org/ifrc/>

Fed Net <https://fednet.ifrc.org/en/home/>

Learning Platform <https://ifrc.csod.com/client/ifrc/default.aspx>

➤ 赤十字国際委員会（ICRC）ウェブサイト

Resource centre <https://www.icrc.org/en/resource-centre>

➤ 身近な拠点病院 国際医療救援部へのお問合せ先（直通電話/e-mail）

1) 日本赤十字社医療センター 03-3400-0232 e-mail [imrd@med.jrc.or.jp](mailto:imrd@med.jrc.or.jp)

2) 名古屋第二赤十字病院 052-832-5467 e-mail [kokusaikyuen@nagoya2.jrc.or.jp](mailto:kokusaikyuen@nagoya2.jrc.or.jp)

3) 大阪赤十字病院 06-6774-5030 e-mail [imr@osaka-med.jrc.or.jp](mailto:imr@osaka-med.jrc.or.jp)

4) 日本赤十字社和歌山医療センター 073-422-4171 e-mail [imrd@wakayama-med.jrc.or.jp](mailto:imrd@wakayama-med.jrc.or.jp)

5) 熊本赤十字病院 096-384-2111 e-mail [kokusaig@kumamoto-med.jrc.or.jp](mailto:kokusaig@kumamoto-med.jrc.or.jp)

➤ 日本赤十字社本社国際部 企画課研修係へのお問合せ先（直通電話）

03-3437-7090 （月-金 9:30～17:30）